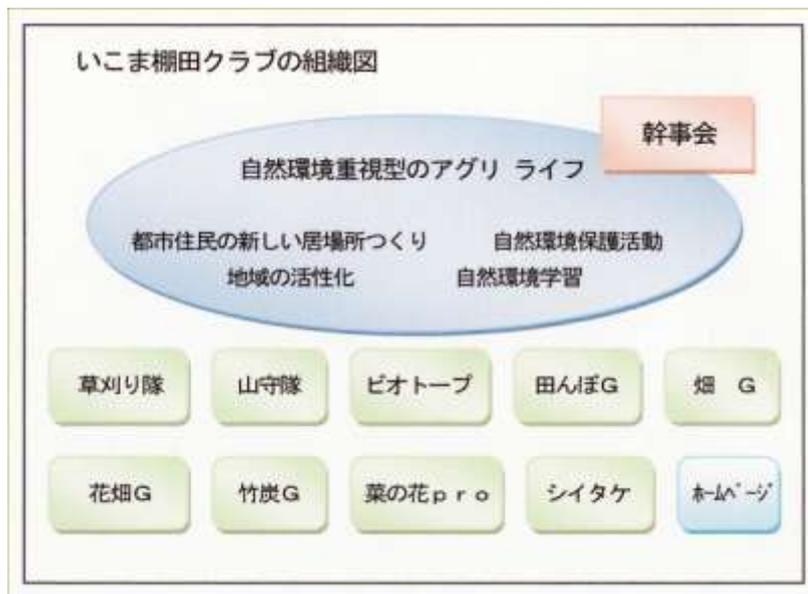


自然環境保全ボランティア いこま棚田クラブ (任意団体)

2012.10.7

作成 出口 育宏

1. 活動場所 生駒市西畑町の棚田・里山 生駒山暗峠から奈良県側 2km 東 国道 308 沿い (標高 390m~310m) 棚田 5ヶ 里山 (向山) 5ヶ
2. 生駒市西畑町 世帯数 20戸 人口 80名
西畑自治会内に棚田を守る会結成 (2002年) 会長 東野 恭巳 様
3. いこま棚田クラブ NPO法人シニア自然大学校 (本部大阪市) の自然環境講座修了生の有志で結成 (2003年 10月) 代表幹事 出口 育宏 現会員数 約 75名
4. 活動の経緯 西畑町の棚田の荒廃が進み休耕棚田が増えていた。歴史的にも由緒ある景観を後世に残そうと「棚田を守る会」が結成されたがパワー不足で困っていた。シニア自然大学の有志では自然観察や観察会のできるマイフィールドを求めている。そこで有志を募って西畑町に出かけ「いこま棚田クラブ」を設立した。
5. いこま棚田クラブ 基本的スタンス
 - ・生駒市西畑地区の自然環境 (棚田) の保全と創造を計る
 - ・持続可能な活動と発展を目指す
 - ・地域住民と相携えて” 棚田の復活と技術の伝承” を目指す
 - ・これらの活動はボランティアとし、” 自分自身の夢の実現と心の豊かさ” を目指す (いこま棚田クラブ規約より抜粋)
6. 活動体制 西畑町自治会 (棚田を守る会) といこま棚田クラブは協働で休耕棚田の保全活動を実施する。
 - ・景観整備 休耕棚田の草刈り、休耕棚田の再生と活用、向山間伐整備など
 - ・援農 水稻栽培、そば、大豆の栽培、南高梅の栽培、棚田米購入など
 - ・自主活動 野菜畑、花畑、菜の花栽培、竹炭、棚田体験イベントなど
 地元と共同作業 (大とんど、草刈り、水路清掃、収穫祭など) 6回/年
 いこま棚田クラブ活動 毎月第 1,3,5 日曜日、第 2,4 月曜日、特別活動 随時
7. 活動内容と組織 幹事会 毎月 1回開催 (第 1月曜日 13:00~16:00) 幹事 15名



8. 会員構成 約 75 名（正確にはわからない）会員名簿なし、毎回の定例活動参加者 30 名程度
 男女の比率 6:4 シニア自然大学出身者比率 7:3 年齢 65 歳以上 50%
 在住地域： 生駒市、平群町、奈良市、大和郡山市、四条畷市、寝屋川市、枚方市
 東大阪市、大東市、大阪市、堺市、柏原市、豊中市、池田市、京都府
9. 会費 無料、収穫した農作物は参加者で分配（協力金として 100 円徴収）
 半期（6ヶ月）に 5 回以上参加者にスロット関西カード支給（2000 円~3000 円）
10. 資金計画 収入 100 自己資金 35 （農作物収入 25 棚田体験イベント 8 花、竹炭販売 2）
 補助金 25 （地域の里山づくり事業（生駒市）
 助成金 30 （キリン・シルバー 力）
 積立金補充 10
 支出 100 タクシー代 5 マイカー提供者謝礼 12 スロット関西カード 15
 炊作費用 15 諸謝金 8 会場費 6 保険料 7 地元交流会 5
 印刷製本 6 什器・資材 6 消耗品 7 雑費 5 その他 3
11. 広報 西畑向け いこま棚田クラブ通信（季刊） A4 版 2 ページ（カラー）
 会員向け いこま棚田クラブ日誌（スポット） A4 版 1 ページ（カラー）
 外部向け いこま棚田クラブホームページ www1.kcn.ne.jp/~mkosaka/
 コンクール応募 ・田園自然再生活動 ~自然と共生する農村づくり~
 ・食と地域の絆づくり（農水省）
12. コラボレーション団体 ・近畿大学農学部環境管理学科（環境政策研究科） 里山遊歩道道作り
 ・奈良生活協同組合 ならコープ 菜の花エコプロジェクト
 ・いこま山のようちえん あじさいの管理
13. 生駒市行政 ・産業振興課 ・みどり景観課 ・生駒市活動推進センター ららポート
14. 受賞歴 ・第 14 回 全国ボランティアフェスティバル優秀賞（2005）
 ・第 2 回 生駒市環境行動賞（2011）
 ・第 8 回 オーライ！ニッポン大賞(2011)
15. 加盟（登録）団体 ・奈良県地域貢献サポート基金
 ・奈良NPOセンター
 ・棚田ネットワーク
 ・シニア自然大学校
16. 今後の展望（課題） ・NPO法人化は考えていない。
 ・ソーシャルビジネス化は難しい。
 ・棚田・里山を一般市民への開放は不可（民有地）。
 ・都市住民と農村の交流の場。
 ・都市住民の憩いの場。
 ・自然環境重視型のアグリーライフ。
 ・西畑の棚田・里山にフットパスを作りたい。

フットパスとは英国を発祥とする“森林や田園地帯、古い街並み”など地域に古くからあるありのままを楽しみながら歩く「Foot」ができる小径「Path」のことです。
 英国では土地の権利は地権者にあるが景観を見る権利は世界の人々にある。と謳われている。